

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	下関市立一の宮小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	4	3	3	-	19	24
児童数	99	87	117	127	111	106	-	647	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学ぶことのできる授業の創造

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1～6年生 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・算数の特性(内容の系統性・関連性が明確)から全校体制として継続的に取り組んだ場合、成果や課題が見えやすいと考えたため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「算数の確かな知識・技能」と「算数におけるものの見方・考え方」をあわせて身に付けること(主体的に学ぶ力を身に付けること)ができるような指導法の工夫</p> <p>研究の見通し(仮説) 子どもたちの実態を把握した上で、問いを生み出す授業、考えることを重視した授業を展開するとともに、自己評価能力の育成に力を入れることで、主体的に学ぶ力を身に付けさせることができるのではないかと?</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業研究を中心に研究を推進(年間6回) 各研究部の視点からの工夫/工夫に対する研究協議 ・ 研究部による研究(授業実践に生かす) <ul style="list-style-type: none"> [指導法研究部] 問いを生み出す指導法、意欲を高める指導法など (操作活動の積極的導入、ノート指導の充実) [教材研究部] 問いを生む教材教具、朝の活動の時間のプログラム開発など (習熟プログラムの開発、授業時の補充教材の開発) [評価研究部] 自己評価方法の研究、授業評価方法の研究など (標準学力検査結果の分析、自己評価の工夫) 研究部相互に情報交換を行い、研究を深めていく
--------	--

平成
16
年度

テーマ

「算数の確かな知識・技能」と「算数におけるものの見方・考え方」をあわせて身に付けること（主体的に学ぶ力を身に付けること）ができるような指導法の工夫（継続）

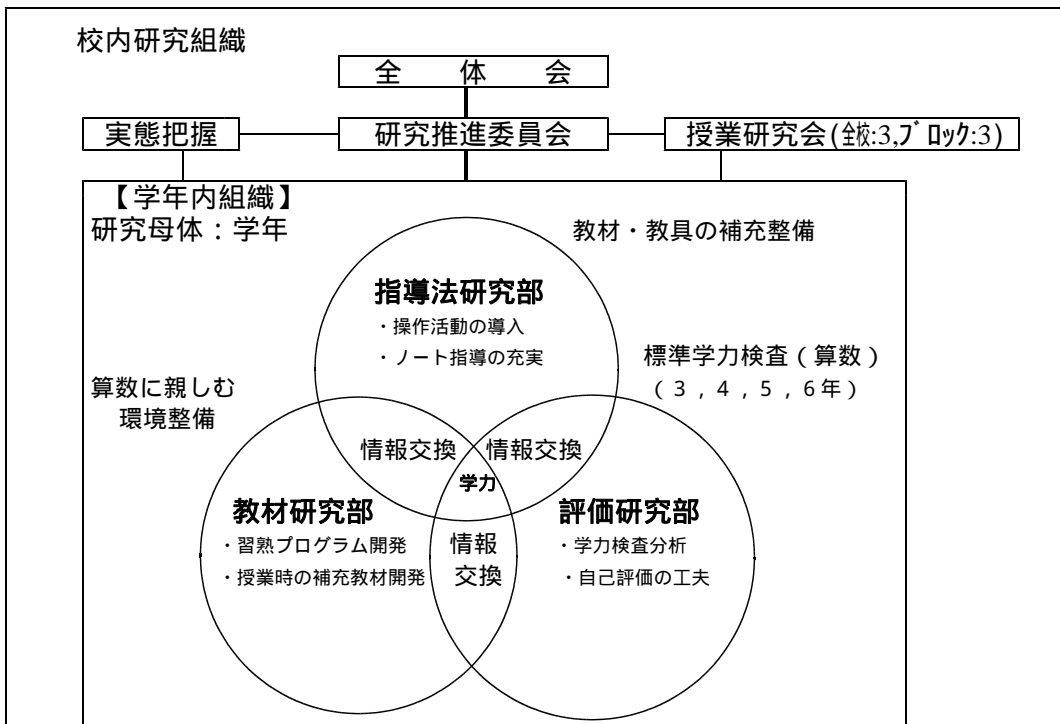
研究の見通し（仮説）

前年度の研究を踏まえ、指導体制を強化した上で、問いを生み出す授業、考えることを重視した授業を展開するとともに、自己評価能力の育成に力を入れることで、主体的に学ぶ力を身に付けさせることができるのではないかと？

研究の内容・方法

- ・ 授業研究を中心に研究を推進（年間6回）
各研究部の視点からの工夫／工夫に対する研究協議
- ・ 研究部による研究（授業実践に生かす）
 - [指導法研究部]
問いを生み出す指導法、意欲を高める指導法など
（操作活動の効果的導入、ノートの効果的活用）
 - [教材研究部]
問いを生む教材教具、朝の活動の時間のプログラム開発など
（個の理解度に応じた習熟プログラムの開発、授業時の補充・発展教材の開発）
 - [評価研究部]
自己評価方法の研究、授業評価方法の研究など
（標準学力検査結果の分析、自己評価の工夫・授業改善に生かせる授業評価）
研究部相互に情報交換を行い、研究を深めていく

(3) 研究推進体制



研究体制

- ・ 少人数指導（3年）加配教員1名
- ・ オープンスペースの活用（習熟度別学習、学年協業学習）

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

各研究部毎の成果					
指導	<p>【操作活動の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数セットの積極的活用で、数や図形に対するイメージを広げることができた。子どもたちは、遊びの中でも活用をするようになってきた。 (1年生：日々の授業) ・ 具体物を使った導入により、学習問題に対して「できるかもしれない」という解決の見通しをもつことができた。 (3年生：少人数・研究授業「計算のじゅんじょ」) ・ 三角形、平行四辺形の公式を使っていろいろな四角形の面積を求める活動の際に、実際に図形を切ったり、組み合わせたりする具体的な操作活動を取り入れることで、多様な考え方を引き出すことができた。 (5年生：研究授業「面積」) ・ 不定形なものの体積を求める方法を考え、実際にその方法で求めてみる活動を取り入れることで、多様な求積方法を引き出すことができた。(教師予想：3通り/実際：4通り)また、試行錯誤する中から、解決の見通しをもつことができた。 (6年生：研究授業「体積」) 				
	<p>【ノート指導の充実】(全校体制)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【ノート整理の基本(方眼)】</th> <th>【内容】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 左2cmのところに縦線を引く 線の左に月日、ページ、問題番号 つけ、訂正は赤でする 筆算などは定規を使って書く </td> <td> 学習過程・考えがわかるノート 問題も写すことで書く力を ステップアップしたら自分の言葉でノートづくり </td> </tr> </tbody> </table>	【ノート整理の基本(方眼)】	【内容】	左2cmのところに縦線を引く 線の左に月日、ページ、問題番号 つけ、訂正は赤でする 筆算などは定規を使って書く	学習過程・考えがわかるノート 問題も写すことで書く力を ステップアップしたら自分の言葉でノートづくり
	【ノート整理の基本(方眼)】	【内容】			
左2cmのところに縦線を引く 線の左に月日、ページ、問題番号 つけ、訂正は赤でする 筆算などは定規を使って書く	学習過程・考えがわかるノート 問題も写すことで書く力を ステップアップしたら自分の言葉でノートづくり				
<ul style="list-style-type: none"> ・ きめられたようにきちんと書くことで、用具の使い方、直線の引き方が身につき、きちんとノート整理できる児童が増えてきた。 ・ 間違いを消すのではなく訂正することで、なぜ間違ったのかという振り返りができる学習の足跡を重視させることで、答えを出していく過程の大切さを意識できるようになってきた。(5年生：日々の授業) 					
研究部	<p>【少人数指導】(3年)</p> <p>【対児童アンケート結果】(15.5.14実施)</p> <p>Q1：3年生になって算数は楽しいですか？ A：楽しい 85% / 楽しくない 15%</p> <p>Q2：グループ(少人数のこと)に分かれて学習することは？ A：よい 91% / よくない 9%</p> <p>Q3：Q2の理由(よい： , よくない：) A： わかりやすい、やりやすい(19) みんなと一緒にのほうが楽しい 楽しい、おもしろい (17) 算数はすきではない 落ち着いてできる、静か (9) 指名されやすい (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科において学力差の激しい学年であるが、算数に関しては少人数指導により、自分に合うと思うペースで学習しているせいか、多くの子ども 				

	<p>たちが楽しいと思ったり、算数が得意だと感じている（前頁参照）。このことから、学習意欲を高める上で効果的な体制であるといえる。</p>
教材	<p>[朝の活動の時間の活用](全校体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100マス計算など主として習熟を図る計算を積み重ねることで、計算速度、計算の正確さが増してきた。 ・ 低学年においては、同じ問題プリントに繰り返し取り組ませることも、正しく速く計算できるようにさせる上で効果的であることがわかった。 ・ 高学年では、自主学習の時間として、自分のペース、自分の理解の度合いによって問題を選択することで、学習の目標(どこがわかっていなくて、どこを強化していこうとしているのか等)を確認しながら学んでいく姿勢が身に付きつつある。
研究部	<p>[授業時の補充的な教材の開発]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元に合わせて、九九、わり算、たし算、ひき算のプリント(80問小テスト)を授業の始めに位置づけることで、自分で前回の結果との比較ができ、プリントや学習單元への取組意欲が増してきた。また、集中力も身に付いてきた。 ・ かけ算の筆算など忘れてしまいがちな計算方法の復習としてミニテストは有効であることがわかった。「できる」という自信が学習意欲へもつながってきている。 ・ 2年生において、九九オリンピックという形で、ホップ、ステップ、ジャンプの3つのコースを設定し、規定枚数のプリントを解き、自分で答え合わせをしてクリアすると次のコースへ移動できる方法で取り組んでみたが、たいへん意欲的に取り組み、効果的に習熟を図る上で有効であると確認できた。(2年生：研究授業)
評価	<p>[児童の学力評価を生かす]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準学力検査の結果から、理解度の低い分野を分析し、新しい単元に入るときにミニテストを実施し、既習内容がどの程度身に付いているかを改めて把握した上で、既習事項の復習を含めて単元を展開する等の工夫をしたり、理解度に基づいたワークシートをつくったりした。このように、客観的な学力評価データは、単元展開を考える上で参考になったし、補充的な教材の必要性も把握することができた(教材研究部の欄参照)。
研究部	<p>[児童の自己評価を生かす]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年においては、自己の学習状況を意識させ、学習の意欲化につなげることを意図して、第1段階は、授業の始めに本時のめあてを知らせ、終わりにそれができたかどうかをたずねていくことから始めた。その次の段階として、ノートに記号()で振り返るように、段階的に取り組んでいった。これにより、指導を要する子どもが把握でき、次時の指導の際に留意して取り組むことが可能となった。 ・ カードにその日の授業の自己評価を書かせることに取り組んだ結果、その時間の教師側の手応えと児童の自己評価がほぼ一致しており、次時に留意すべき児童がよく把握できた。 ・ 高学年において、児童の教科書の内容毎の自己評価とテスト問題正答率との相関関係を調べてみたが、ある程度一致しており、自己評価が指導上の参考資料となることがわかった。

2. 今後の課題

指導法の研究

- ・より効果的な操作活動の導入を含めた知的好奇心を喚起する展開の工夫
- ・自信につなげる支援の在り方

少人数指導

- ・可能な限り指導対象学年を拡大

ノート指導の研究

- ・自分なりの工夫があるノートへの発展
- ・書いたことを生かす工夫（展開の工夫、児童相互評価等）

教材の研究

- ・個の理解度に応じた習熟問題の開発及び補充・発展の両面からの教材開発

児童の自己評価

- ・「何をどう評価させるか」時間的な面、自信につなげる面からの工夫

学力等把握のための学校としての取組

調査の目的：前年度の学習内容の定着状況を把握し、指導の指針とするため
実施内容：標準学力検査（3～6年算数）
時期：5月下旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 説明会の開催実績 【学力向上フロンティア事業下関地区協議会】
日時：平成16年1月28日（水）13：00～
場所：豊浦町立室津小学校
対象：下関管内小・中学校教職員及び保護者
目的：研究協議及び各校の研究成果の普及啓発
- * 研究成果普及のためのパンフレット作成等の実績【研究紀要作成・配布】
研究紀要を100部作成し、下関管内小・中学校に配布予定（3月中旬）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無